
『民族・資源・軍事で読み解く中東地政学』

— イスラエルとクルディスタンを軸とした戦略連関 —

2026. 3..9 筆者 木下顕伸

はじめに

ユダヤ民族とクルド民族の関係性を分析する研究は、これまでほとんど行われていない。両民族には共通点もあるが、状況や歴史的背景には大きな差異がある。

ユダヤ民族は 1948 年にイスラエルを建国した一方、クルド民族は分断されており、いまだ独立国家を持たない。さらに、クルド民族は文字を持たない最大級の民族でもある。宗教的には、ユダヤ民族はユダヤ教を信仰するのに対し、クルド人はゾロアスター教を基本にしつつも、現在ではイスラム教徒が多数を占める。

歴史的観点では、ユダヤ民族は世界各地に離散させられた民族であるのに対し、クルド民族は地理的・政治的に分断された民族である。また、ユダヤ民族は選民主義的なアイデンティティを保持してきたのに対し、クルド民族はメソポタミア文明発祥の地に根ざす歴史的・民族的アイデンティティを有している。

経済的には、ユダヤ人は世界経済に大きな影響力を持つ一方で、クルド民族はトルコ、イラン、さらには米国やロシアといった大国の影響下で翻弄される立場にある。

本稿では、歴史、経済、軍事、政治、民族の各観点から、ユダヤ人とクルド人の関係性および両者の違いを考察することを目的とする。

エグゼクティブサマリー

1. 民族要因

クルド人は中東最大の無国家民族、中東では国家境界と民族分布が一致していない。ユダヤ人は離散民族から国家再建した民族であり、両者の歴史は民族政治の象徴である。

2. 軍事戦略

イスラエルは周辺同盟戦略を採用し、クルド勢力や非アラブ国家と連携して安全保障を構築してきた。

3. 資源地政学

クルディスタン地域は石油・天然ガス資源を有する重要地域であり、資源を持たないイスラエルにとって戦略的価値を持つ。潜在的戦略パートナーである。

4. エネルギー取引

2014～2017年、イスラエルはクルディスタン産原油の主要購入国の一つとなり、非公式エネルギー供給ネットワークが形成された。

5. 地域秩序再編

アブラハム合意以降、中東ではイスラエル・湾岸諸国・トルコ・中央アジアを含む新しい安全保障・資源連携が形成されつつある。

1 民族要因:クルド民族

1-1 クルド民族の人口と分布



クルド人人口:約 3000 万~4000 万人

分布

- トルコ
- イラン
- イラク
- シリア
- アルメニア

- 第一次世界大戦後サイクス・ピコ協定によって民族地域が分割され、国家を持たない状態が続いている。

移民などを経て、

- イスラエル
- ロシア
- イスラエル
- イギリス
- 欧州各国
- 米国

に居住する。統計上の目安となるのは、国籍を取得する際の出身地が目安となる。これを元に統計する他ない。

1-2 欧州と英国移民

国	クルド人
ドイツ	約 120 万人
フランス	約 32 万人
オランダ	約 12 万人
スウェーデン	約 12 万人
ベルギー	約 9 万人
オーストリア	約 8.5 万人
英国	約 9 万人以上

1-3 欧州人口に対する割合

欧州連合の人口は、約 4 億 5000 万人程度。仮にクルド人を

- 150 万～200 万人

とすると=200 万 ÷ 4 億 5000 万 \approx 0.44% つまり約 0.3～0.5%程度になる。

1-4 国別だと割合はかなり違う

特定の国では割合がやや高くなる。

例

- **ドイツ**
 - 約 120 万人
 - 人口 8300 万人
 - **約 1.4%**
- **スウェーデン**
 - 約 12 万人
 - 人口 1050 万人
 - **約 1%前後**

-
- 欧州のクルド人
 - **約 150 万～200 万人**
 - 欧州人口に対する割合
 - **約 0.3～0.5%**
 - **ドイツなど一部の国では 1%以上**
-

1-5 イスラエルのクルド系人口

研究や統計では主に 2 種類に分けられる。

1-5-1 クルディスタン出身のユダヤ人(最大のグループ)

- 約 20 万～30 万人
- 主に **イラク北部・イラン・トルコのクルディスタン地域**から移住したユダヤ人とその子孫

多くは

- **1950 年代の移民(特にイラクから)**

- 空輸移民作戦「エズラ・ネヘミヤ作戦」などでイスラエルへ移住

特徴

- イスラエル社会に完全に統合
 - 主な居住地
 - エルサレム
 - テルアビブ
 - 農村モシャブ(農業村)
-

1-5-2 クルド人(イスラム系など)

これはかなり少なく

- 約 15 万～20 万人程度という推計もあるが小規模
- 多くは難民や個人移住者

ただし統計は曖昧で、イスラエルでは通常「クルド系ユダヤ人」が圧倒的多数。

出典

- David McDowall *A Modern History of the Kurds*
- Mehrdad Izady *The Kurds: A Concise Handbook*
- CIA World Factbook

1-6 クルド民族の言語

1-6-1 クルマンジー(Kurmanji)

- 言語系統
インド・ヨーロッパ語族 → イラン語派 → 西イラン語群
- 文字
ラテン文字が主流(トルコ、シリア、欧州移民コミュニティで使用)
- 地域分布

- トルコ東部・南東部(最大のクルド人人口)
 - シリア北部(クルド自治区)
 - イラク北部・イラン西部の一部
 - 欧州移民コミュニティ(ドイツ、スウェーデンなど)
 - **話者人口**
約 1,500 万～2,000 万人(クルド語話者の過半数)
 - **特徴**
 - 西部方言の 1 つで、話者が最も多い
 - 古典クルド語に近く、口語・日常会話に強い
 - 教育・出版も徐々に普及(特にトルコやシリアでは都市型コミュニティ中心)
-

1-6-2 ソラニ(Sorani)

- **言語系統**
インド・ヨーロッパ語族 → イラン語派 → 西イラン語群
 - **文字**
アラビア文字改良型(イラク、イラン南部クルド地域で使用)
 - **地域分布**
 - イラク・クルディスタン自治政府地域(アルビル、スレイマニヤなど)
 - イラン西部クルド地域(サンナンダジュ、サラヴァンなど)
 - **話者人口**
約 600 万～1,000 万人
 - **特徴**
 - 文語・教育言語として使用されることが多く、行政・出版・メディアでも主流
 - クルマンジーよりも標準化が進んでおり、学校教育に用いられる
 - アラビア文字使用のため、中東地域の公的文書やメディアに適応
-

1-6-3 クルマンジーとソラニの違い

項目	クルマンジー	ソラニ
文字	ラテン文字	アラビア文字改良型
話者人口	約 1,500 万～2,000 万	約 600 万～1,000 万
地域分布	トルコ、シリア北部、イラク北部西部、欧州移民	イラク北東部(クルディスタン自治政府)、イラン西部
使用場面	日常会話、移民コミュニティ	教育、行政、出版、メディア
標準化	口語中心、地域差が大きい	標準化進む、文語・公式文書で使用
文化的特徴	民話・歌・口承文化に強い	学術・行政・出版物に強い

1-6-4 補足

- **バイリンガル傾向**
多くのクルド人はクルマンジーとソラニの両方、さらに母国語やトルコ語・ペルシャ語・アラビア語も理解することが多い
- **政治的・社会的意味**
 - クルマンジーは民族・移民コミュニティでの結束に重要
 - ソラニは自治政府・教育・行政での標準語としての役割が強い

1-7 トルコ系クルド人が欧州に移民した主な理由

1-7-1 労働移民政策(1960～1970 年代)

最初の大きな移民は、欧州の労働力不足が原因。1960 年代、西ヨーロッパは高度経済成長期に入り、深刻な労働力不足に直面した。そのため欧州諸国はトルコと「労働者受入協定」を結んだ。

代表例

- 1961 年
Germany と Turkey が **労働者協定(Gastarbeiter 制度)** を締結

この制度により多くのトルコ人労働者が欧州へ渡り、この中にトルコ東部のクルド人も多数含まれていた。

主な移住先

- Germany
- Netherlands
- Austria
- Sweden

この段階では、政治難民ではなく「出稼ぎ労働者」であった。

1-7-2 クルド人弾圧と政治難民(1980年代)

1980年代から状況が大きく変わる。1980年にトルコで

- 1980 Turkish coup d'état が発生した。

軍政は左派・クルド民族運動を強く弾圧した。さらに1984年から

- Kurdistan Workers' Party とトルコ政府の武装衝突が始まった。

この結果

- 村の破壊
- 強制移住
- 政治弾圧

が増加し、政治難民として欧州へ亡命するクルド人が急増した。

1-7-3 村落破壊と国内避難民(1990年代)

1990年代は最も大きな移民波が発生した。トルコ政府は PKK 対策としてクルド農村の強制移住政策を実施した。

国際研究では

- 約 3000～4000 の村が破壊
- 約 200 万人が国内避難民

とされている。この中の一部が欧州へ移住した。

主な受入国

- Germany
- France
- Sweden
- Netherlands

特にスウェーデンは政治亡命の受入が寛容であった。

1-7-4 家族呼び寄せ移民(1990～2000年代)

最初に移住した労働者・難民が定住すると、家族呼び寄せ移民が増、これにより欧州のクルド人口は急増した。現在の推定：欧州クルド人口→約 150 万～200 万人

内訳(概算)

- Germany
約 80 万～100 万人
- France
約 30 万人
- Sweden
約 10 万人
- Netherlands
約 10 万人
- Austria
約 10 万人

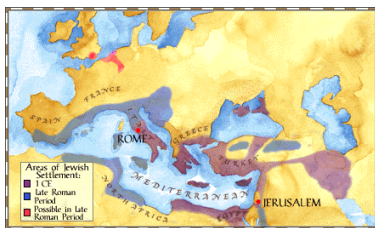
1-7-5 まとめ(地政学的視点)

トルコ系クルド人の欧州移民は以下の4要因の重なりである。

- 1 労働移民(1960年代)
- 2 軍事政権弾圧(1980年代)
- 3 PKK紛争(1990年代)
- 4 家族呼び寄せ移民(2000年代)

つまり「**経済移民 → 政治難民 → ディアスポラ形成**」という三段階で形成された。

2 民族要因:ユダヤ民族



ユダヤ人:歴史的特徴

- 離散(ディアスポラ)民族
- 近代民族運動
- シオニズム:1948年 **イスラエル建国**

19世紀:シオニズム運動により 1948年**イスラエル建国**→民族国家を再建した。

2-1 世界人口に占める割合

- 世界人口:約 80億人
- ユダヤ人人口:約 1,500万人 計算すると約 0.18%~0.2%(約 500人に1人)となる。

2-2 主な地域別人口(主要国)

順位	国	ユダヤ人口
1	Israel	約 730 万人
2	United States	約 630 万人
3	France	約 43.8 万人
4	Canada	約 40 万人
5	United Kingdom	約 31.3 万人
6	Argentina	約 17 万人
7	Germany	約 12.5 万人
8	Russia	約 12.3 万人
9	Australia	約 11.7 万人
10	Brazil	約 9 万人
11	South Africa	約 4.9 万人
12	Hungary	約 4.5 万人
13	Mexico	約 4.1 万人
14	Netherlands	約 3.5 万人
15	Ukraine	約 3.2 万人
16	Belgium	約 2.9 万人
17	Italy	約 2.7 万人
18	Switzerland	約 2.0 万人
19	Uruguay	約 1.6 万人
20	Chile	約 1.5 万人
21	Turkey	約 1.5 万人
22	Sweden	約 1.49 万人
23	Spain	約 1.3 万人
24	Austria	約 1.03 万人
25	Panama	約 1 万人

(※1 万人以上の国)

ユダヤ人の多くは次の国に集中している。

中東

- **Israel**
約 730 万人(世界最大)世界のユダヤ人の 約 46% がここに住んでいる。

北米

- **United States**
約 630 万人 世界で 2 番目のユダヤ人口。
- **Canada**
約 40 万人

欧州

- **France**
約 43 万 8 千人
 - **United Kingdom**
約 31 万人
 - **Germany**
約 12 万 5 千人
 - **Russia**
約 12 万 3 千人
-

南米

- **Argentina**
約 17 万人

- **Brazil**
約 9 万人
-

オセアニア

- **Australia**
約 11 万 7 千人

中東・イスラム圏は非常に少ない

かつて多く住んでいた中東では現在

- Turkey 約 1.4 万人
- Iran 約 9000 人
- Morocco 約 2000 人

程度まで減少している。

2-3 地理的特徴:世界人口の集中度

世界のユダヤ人の分布は極めて偏っている。

地域	割合
イスラエル	約 46%
米国	約 40%
その他の国	約 14%

つまり、世界のユダヤ人の約 85%以上がイスラエルと米国に集中している。

2-4 ユダヤ民族が都市部に集中した理由

2-4-1 宗教的・社会的制約からの背景

- **土地所有の制限**

中世ヨーロッパでは、多くの国でユダヤ人が農地を所有することを禁止されていた。農業が主要な生計手段だった時代に、土地を持たないことは田舎での生活を困難にした。そのため、自然と都市部で商業や手工業に従事することになった。

- **居住制限(ゲットー制度)**

特にイタリア、ポーランド、ドイツなどでは、ユダヤ人は都市内の特定区域(ゲットー)に居住を制限され、これが都市集中の直接的要因となった。

2-4-2 経済的な理由

- **商業・金融業への従事**

宗教的理由やギルド制の制約で多くの職業に就けなかったユダヤ人は、都市で貸金業、商業、職人業、金融業などに従事し、都市部は市場・交易の中心であり、こうした職業に適していた。

- **ネットワーク形成**

商業活動は人的ネットワークが重要であり、都市に集まることで同胞間の信頼関係や情報網を活用できた。

2-4-3 迫害と移動の歴史

- **追放の歴史**

中世スペイン(1492年のアルハンブラ勅令)やイングランド(1290年)などでユダヤ人は追放され、移住先として都市や交易路沿いの町を選ぶことが多くなり、農村に受け入れられることは少なく、都市に集中せざるを得なかった。

- **相対的安全性**

都市は城壁で守られ、地方の村落よりも外敵や暴徒からの迫害を防ぎやすいという利点があり、また都市の行政や権力者に保護を求めやすいという事情。

2-4-4 教育・文化的理由

- **教育水準の維持**
ユダヤ教では読み書きや宗教学習が重視されるため、教育施設へのアクセスが必要であり、都市部には学校やラビのコミュニティが集中しており、文化的・宗教的生活を維持するのに便利であった。
- **コミュニティ形成**
同じ宗教・文化を持つ人々と集まることで、言語、宗教儀式、商業ネットワークを維持できた。

2-4-5 近代以降の傾向

- **産業化と都市化**
19世紀以降、ユダヤ人は都市における教育職、法律、金融、出版、工業などに進出した。農業に従事する例は少なく、都市化はさらに加速した。
- **移民と都市集中**
19世紀末～20世紀初頭、東欧からアメリカや西欧へのユダヤ人移民も都市部に集中し、ニューヨークやワルシャワ、ベルリンなどの都市でコミュニティが形成された。

2-4-6 まとめ

ユダヤ人が都市部に集中するのは以下の複合的要因による：

1. 土地所有や職業制限により農村生活が困難
2. 商業・金融業への適性と都市市場の存在
3. 迫害や追放の歴史により都市が相対的に安全
4. 教育・宗教・文化的活動の維持
5. 近代化と産業化による都市職業への集中

つまり、都市集中は歴史的に形成された「必然的な選択」であり、文化的・社会的ネットワークを維持する上でも合理的な戦略。

2-4 イスラエル国内の人口

イスラエルの人口は、約 980 万～1000 万人(2024～2025 年頃の推計)

内訳はおおよそ次の通り。

グループ	人口	割合
ユダヤ人	約 730 万人	約 73～74%
アラブ系(主にパレスチナ系)	約 210 万人	約 21%
その他	約 40 万人	約 4～5%

※「その他」

- 非ユダヤ系移民
 - キリスト教徒
 - ドゥルーズなどが含まれる。
-

2-5 クルド系ユダヤ人

イスラエルには クルディスタン地域出身のユダヤ人の子孫が多く、

- 約 20 万～30 万人
- 人口の 約 2～3%

と推定されている。主なルーツの地域

- イラク北部
- イラン西部
- トルコ東部
- シリア北部

2-6 イスラエルのクルド系政治家の例

シモン・ペレス元首相はクルド系？

イスラエル元大統領 シモン・ペレス の出身は、ポーランド領(現在のベラルーシ)生まれ。東欧ユダヤ人(アシュケナジ系)と言われている。

基本プロフィール

- 生年:1923 年
- 出身:ヴィシニェヴァ(当時ポーランド)
- 1934 年に家族とともにパレスチナへ移住

そのため民族的には、クルド系ではなく東欧ユダヤ系と言われる。

※イスラエルにクルド系首相はいないとされている。

しかし、シモン・ペレスは東欧ユダヤ系と言われているが彼の先祖は約 120 年前にイラク北部(クルディスタン地域)から移民したと言われている。根拠として、親族の葬儀に出席したともいわれている。他にも

- サーレブ・サレム
 - エルサレム市長(1967-1969)
 - クルド系ユダヤ人

などがある。イスラエルには、クルド系ユダヤ人政治家が存在する。

3. ユダヤ民族とクルド民族の政治・経済の比較

3-1 ユダヤ系政治家の世界的活躍

地域	政治家例	ポジション	特徴・背景
アメリカ	Bernie Sanders	上院議員・大統領候補	議会・地方政治で広く活躍、教育・都市コミュニティ出身が多い
	Chuck Schumer	上院多数党院内総務	議会内で指導的立場、ユダヤ系ネットワーク活用
	Dianne Feinstein	上院議員	長期在任で政策影響力大
イギリス	Benjamin Disraeli	首相(19世紀)	ユダヤ系家庭出生、民族的背景が政治キャリアに影響
フランス	Léon Blum	首相(1930年代)	労働運動・社会党で活躍、民族的少数派から政権達成
ウクライナ	Volodymyr Zelenskyy	大統領(2019～)	コメディアンから政界転身、都市型・メディア出身
ハンガリー	Gordon Bajnai	首相(2009～2010)	経済・財政分野出身で政治家へ
ドイツ	Michel Friedman	州政治・評論家	連邦より州レベルで影響力、都市部に集中
アルゼンチン	Sergio Bergman	元環境大臣	移民社会で都市中心に活躍

共通特徴:

- 都市集中型コミュニティ出身
- 教育・法律・メディア背景が多い
- 移民社会でのネットワークを活かす
- 世界各地で少数派から政権・議会に進出

3-2 クルド系政治家の世界的事例

地域	政治家例	ポジション	特徴・背景
トルコ	Selahattin Demirtaş	元人民民主党(HDP)党首・国会議員	民族的少数派として地方・国会で活動
	Kurçidal Ör	大統領候補	トルコで大統領選出馬経験、民族派・都市部支持層中心

地域	政治家例	ポジション	特徴・背景
イラク・クルディスタン	Masoud Barzani	クルディスタン地域大統領	自治政府のトップ、地域政治中心
イラン(クルド地域)	Abdul Rahman Ghassemlou	政治家・活動家(歴史的人物)	少数派権利運動に従事、中央政権との対立あり
ドイツ	Helin Evrim Sommer	議会議員	移民・難民として政治参加、都市部選挙区中心
オランダ	Dilan Yesilgöz	副首相兼国防大臣	クルド系出身、国政で主要閣僚ポストに就任
英国	Hikmet Ersek 元財務大臣	地方自治体・市議会 政府財務大臣	クルド系コミュニティ支援・政策提言 国政で高官経験、クルド系として主要ポストに就任
オーストリア	Berivan Aslan	国会議員	クルド系出身、移民コミュニティの代表的政治家
オーストリア	前回首相候補	首相候補	クルド系出身、政党支持基盤は都市部移民コミュニティ

共通特徴:

- 民族的少数派として地方・国会で活動
- 難民・移民コミュニティを基盤に政治参加
- 中央政権との対立や自治権獲得運動と結びつく
- 欧州では都市部の多文化地区を拠点に議員活動

3-3 ユダヤ民族とクルド民族の政治家比較まとめ

観点	ユダヤ系政治家	クルド系政治家
地理的広がり	米国・ヨーロッパ・イスラエル・南米	トルコ・イラク・イラン・欧州(ドイツ・スウェーデン・英国・オーストリア)

観点	ユダヤ系政治家	クルド系政治家
政治到達レベル	国家元首・首相・上院議員など多数	地域首長・国会議員・地方議会中心、欧州で高官・首相候補経験あり
都市集中性	都市・都市型コミュニティ出身が多数	欧州では都市部移民コミュニティ中心、母国では民族地域・都市部支持層
進出の背景	教育・法律・金融・メディアを活かす、移民社会でネットワークを活用	民族的少数派としての権利運動、難民・移民コミュニティ基盤
政治戦略	主流政党・中央政権参入、制度内進出	自治権確保・少数派代表、中央政権と対立、欧州では高官・首相候補として制度内進出も増加

3-4 なぜ欧州のクルド人は政治的影響力を持つようになったのか

— ディアスポラ政治と欧州民主主義構造 —

欧州に移住したクルド人は、単なる移民コミュニティにとどまらず、政治・社会・メディアの分野で一定の影響を持つようになった。その背景には、欧州政治制度、ディアスポラ形成、組織化されたロビー活動など複数の要因が存在する。以下では、その構造を五つの要因から分析する。

3-4-1 欧州の移民政治制度

欧州の多くの国では、移民が政治参加する制度が比較的整っている。

例えば

- Germany
- Sweden
- Netherlands
- Austria では

- 永住権
- 地方参政権
- 帰化制度

が比較的容易である。そのため第二世代・第三世代のクルド人が

- 市議会
- 国会
- 政府機関

に進出する土壌が形成された。

3-4-2 都市集中による政治力

欧州のクルド人は都市部に集中している。

主な都市

- Berlin
- Cologne
- Stockholm
- Amsterdam
- Vienna

都市選挙区では、**数万票の民族票**が政治結果に影響することがあります。このため政党は

- 移民政策
- 人権政策
- クルド問題

に配慮するようになった。

3-4-3 ディアスポラ組織の形成

欧州クルド社会は非常に組織化されている。

代表的組織

- Kurdistan Workers' Party 系ネットワーク
- Kurdish National Congress
- 欧州クルド文化協会
- 人権団体

これらの団体は

- デモ
- ロビー活動
- 議会ロビー

を通じて政治影響力を形成した。特に欧州議会では、クルド問題は、人権問題として議論される傾向がある。

3-4-4 メディア・NGO ネットワーク

欧州のクルド人は

- 人権 NGO
- 学術機関
- メディア

と連携するケースが多い。特に

- シリア紛争
- 対 ISIS 戦争

ではクルド武装勢力が西側メディアで肯定的に報道されることが多かった。

例えば

- Islamic State
との戦闘で

クルド勢力

- People's Protection Units

が注目された。この結果、欧州社会では、「クルド＝民主的勢力」というイメージが形成された。

3-4-5 欧州政党との連携

クルド系政治家は、主に以下の政党に所属する傾向がある。

- 左派政党
- 環境政党
- 社会民主主義政党

代表例

- Dilan Yeşilgöz
(オランダ政府副首相・国防大臣)
- Berivan Aslan
(オーストリア国会議員)
- Helin Evrim Sommer
(ドイツ議会)

このように、欧州政党政治の中に統合されたことが政治影響力の拡大につながった。

3-4-6 結論

欧州におけるクルド政治影響力は、以下の五要素の組み合わせで形成された。

- 1 欧州の移民政治制度
- 2 都市集中による民族票
- 3 組織化されたディアスポラ
- 4 NGO・メディア連携
- 5 欧州政党との統合

つまり、クルド問題は中東問題であると同時に、欧州政治問題でもあるという構造が生まれている。

3-5 ユダヤ系起業家・ビジネスリーダー

地域	起業家例	業界	特徴・背景
アメリカ	Mark Zuckerberg	IT・SNS (Facebook/Meta)	都市部出身、教育水準高く、都市ネットワークを活用してグローバル展開
	Larry Page / Sergey Brin	IT・検索(Google)	移民家庭出身、スタンフォード大学など教育環境を活かして起業
	Michael Bloomberg	金融・メディア	ニューヨーク都市型ビジネス、金融知識・都市ネットワークを活用
イスラエル	Shai Agassi	IT・エネルギー	高度教育・軍事技術背景をビジネスに活用、スタートアップ中心
欧州	Richard Branson	交通・メディア・投資 (Virgin Group)	都市拠点での多角化経営、国際ネットワーク活用
南米	Marcos Galperin	eコマース(Mercado Libre)	移民系コミュニティ出身、都市部で起業

共通特徴:

- 高度教育・専門知識・都市部ネットワークをフル活用
- 移民や少数派出身でも、都市型起業文化に適応

- ・ グローバル市場やテクノロジー産業に進出するケースが多い

3-6 クルド系起業家・ビジネスリーダー

地域	起業家例	業界	特徴・背景
トルコ	Şivan Perwer 系ビジネス家 (例: KurdiTech 創業者)	IT・サービス	クルド系コミュニティ基盤、都市部や海外ネットワークを活用
イラク・クルディスタン	Narin Afrasiyab	建設・エネルギー	自治政府と協力、地域経済を基盤に事業展開
欧州(ドイツ・スウェーデン・オランダ)	Ayşegül Yılmaz	小売・IT	移民都市コミュニティで起業、欧州市場への参入
英国	元財務・ビジネスリーダー (クルド系起業家)	金融・サービス	難民・移民として都市部で起業、社会ネットワーク活用
オーストリア	起業家・都市型ベンチャー	テクノロジー・サービス	移民コミュニティ支援+都市起業

共通特徴:

- ・ 民族・移民コミュニティを基盤にスタートアップ
- ・ 欧州では都市部や移民集積地域での事業が中心
- ・ 母国では地域経済・自治権ネットワークを活用してビジネス
- ・ 国際展開は増えているが、規模はユダヤ系起業家より小さいことが多い

3-7 ユダヤ民族とクルド民族起業家比較まとめ

観点	ユダヤ系起業家	クルド系起業家
地理的広がり	米国・イスラエル・欧州・南米	母国(トルコ・イラク)・欧州(ドイツ・スウェーデン・オランダ・英国)
業界分野	IT・金融・メディア・エネルギー・グローバル企業	IT・サービス・建設・地域経済型ベンチャー — 石油・天然ガス・通信
規模	グローバル企業・多国籍展開多数	地域・欧州都市型事業中心、国際展開は限定的
起業動機	教育・技術・都市型ネットワークを活かした成長志向	コミュニティ支援・移民経済・自治ネットワークを活かす
都市集中度	高い。都市・大学・金融センターが中心	欧州では都市部移民コミュニティ中心、母国では都市・自治中心
共通点	都市ネットワーク・コミュニティの活用	都市やコミュニティ基盤を活用

3-8 民族別経済ネットワーク比較の洞察

比較対象であるユダヤ人とクルド人の経済社会的差異は、**民族コミュニティの歴史的背景、教育文化、移民ネットワークの性質**によって説明できる。

- ユダヤ人のディアスポラは長期にわたる国際移住・商業ネットワーク形成を生んできた。
- クルド人社会は地域国家の制約下で分散しており、同様の国際資本ネットワークを形成する基盤が限られている。

3-9 独立性

- ユダヤ人: 国境を超えた商業・金融ネットワーク形成
- クルド人: 地域国家に制約され、独立資本形成は限定的

本レポートでは、これらの差異をネガティブに評価するのではなく、**歴史的条件・教育文化・移民経路の結果としての経済社会的成果の違い**として分析した。

3-10 言語・学問の文化

- ユダヤ人:タルムード教育を基盤に学問重視
- ノーベル賞受賞者が人口比で高い割合
- クルド人:教育機会は地域差が大きく、学術ネットワークは限定的

ユダヤ民族は、ヘブライ語とヘブライ文字がある。しかし、クルド民族は、クルド語はあるがクルド文字がない。北部は、クルマンジー南部は、ソラニという言葉を使用する。ゆえに、学術書などの統一性がなく、言語表記は、アラビア文字を使用することが多い。

4 軍事戦略:周辺同盟構想

4-1 イスラエルの軍事戦略

イスラエルは建国直後からアラブ国家に囲まれていた。そこで**ダヴィド・ベン＝グリオン**が構想した戦略:**周辺同盟(Periphery Doctrine)**

内容:「アラブ国家以外の勢力と協力する」

対象勢力

相手	戦略目的
クルド勢力	イラク牽制
イラン王政	反アラブ同盟
トルコ	軍事パートナー
レバノン・マロン派	パレスチナ勢力抑制

情報協力:モサドがムスタファ・バルザニのクルド勢力を支援した。

4-2 イスラエルとクルド人軍事同盟

1960年代から1970年代にかけて、イラクのクルド人指導者ムスタファ・バールザーニ(Mustafa Barzani)を支援し、ペシュメルガ(クルド武装勢力)の訓練や軍事指導を行ったイスラエル軍・モサドの主な将軍や関係者は以下の通り。

- **ツリ・サガイ(Tsuri Sagay)**
 - イスラエル国防軍(IDF)の将校・将軍。1965年頃、イラク北部のザグロス山脈に潜入し、ペシュメルガの戦闘計画や指揮を直接支援した人物として最も名高い。彼の指導により、ペシュメルガはイラク軍に対して効果的な作戦を展開できるようになった。
- **メイル・アミット(Meir Amit)**
 - モサド(イスラエル諜報特務庁)長官。1960年代中盤、バールザーニと直接会談し、イスラエルによる資金、武器、訓練の提供を確立した。1966年頃には、山岳地帯にあるバールザーニの拠点を訪問している。
- **レハヴァーム・ゼエーヴィ(Rehavam Ze'evi)**
 - イスラエル国防軍の将軍(アロフ:少将相当)。モサド高官としてバールザーニを支援し、クルドの治安組織「パラスティン(Parastin)」の設立・強化に深く関与した。

これらの支援は、イスラエルが敵対的なアラブ諸国(特にイラク)を牽制するため、非アラブの周辺勢力と協力する「周辺同盟戦略(Periphery Doctrine)」の一環であった。これにより、バールザーニの軍は近代的な戦術と知識を獲得たとされる。

出典

- Walter Laqueur *History of Zionism*
- Anita Shapira *Israel: A History*

5 イスラエルの「周辺同盟(Periphery Doctrine)」とクルド民族

5-1 周辺同盟戦略とクルド民族

この戦略は **ダヴィド・ベン＝グリオン** が 1950 年代に進めた。内容は簡単で、「アラブ諸国の周辺の非アラブ勢力と協力する。」対象は主に

- イラン(当時のパーレビ王朝)
- トルコ
- エチオピア
- クルド人

つまり、イスラエルにとってクルド人は、アラブ国家(特にイラク)を牽制できる存在だった。

5-2 モサドとクルド武装勢力

1960～70 年代、イスラエルの情報機関 **モサド** はイラクのクルド勢力と秘密協力をしてきた。協力相手は**ムスタファ・バルザニ**(イラク・クルド独立運動の伝説的指導者。)

イスラエルが行った支援

- 軍事訓練
- 武器供給
- 情報提供
- イラン経由の支援ルート

目的は、イラクの軍事力を弱めること。

5-3 1975 年:突然の支援停止

1975 年、状況が変わる。**アルジェ協定**:この協定で、イラン・イラクが和解した。

結果

- イラン → クルド支援停止
- イスラエル → 支援継続が困難

クルド闘争は崩壊する。これはクルド史の中でも大きな転換点でもある。

5-4 イラク戦争とクルド自治区

2003年のイラク戦争の後、北イラクではクルディスタン地域が事実上の自治国家になった。この地域は中東で珍しく

- 親米
- 親イスラエル

とされる。イスラエル企業や関係者も水面下で関係を持っていると言われている。

5-5 クルド独立投票とイスラエル

2017年クルディスタン独立住民投票が行われた。世界の主要国はほぼ反対した。しかし例外として、イスラエルだけが公開支持

当時の首相ベンヤミン・ネタニヤフは、クルド人国家を支持すると明言。

5-6 クルディスタン独立と大国の思惑

2017年クルディスタン独立住民投票賛成率＝約92%、しかし、反対した国

- イラク
- トルコ
- イラン
- アメリカ合衆国

唯一支持した主要国家＝イスラエル 理由：地域勢力バランス。

出典

- Brookings Institution
 - International Crisis Group
-

5-7 なぜイスラエルはクルドを支持するのか

理由は主に4つ。

1. 非アラブ民族
2. 世俗的で親西側
3. イラン・イラク・シリアを牽制できる
4. 中東で潜在的な同盟国

つまり地政学的には、イスラエルにとって最も自然な同盟候補の一つ。加えて、クルド系ユダヤ人が多い。

5-8 イスラエルとクルドの関係整理

時代	内容
1950年代	周辺同盟戦略
1960-70年代	モサドがクルド反乱支援
1975	イラン和解で支援停止
2003以降	クルド自治区と接近
2017	イスラエルが独立支持

中東では、イスラエルが生き残るために「**周辺同盟戦略(Periphery Doctrine)**」という独特の外交戦略をとってきた。これは、アラブ諸国に囲まれた状況の中で、**アラブ以外の勢力や少数派と協力する**という考え方である。この戦略を進めたのは初代首相**ダヴィド・ベン＝グリオン**。

6 「周辺同盟戦略(Periphery Doctrine)」という独特のイスラエルの外交戦略

6-1 レバノンのマロン派キリスト教徒



イスラエルが最も強く関係したアラブ国内勢力の一つが、レバノンのマロン派。

背景:

レバノンでは宗教ごとに政治勢力が分かれていた。

主な勢力

- マロン派キリスト教徒
- スンニ派
- シーア派
- パレスチナ勢力

1975年にレバノン内戦が勃発。イスラエルの狙いは

- 親西側のキリスト教勢力
- 反パレスチナ武装組織

だったマロン派を支援した。

支援内容

- 武器供給
- 軍事訓練
- 情報協力

有名な人物: マロン派の指導者バシール・ジェマイエル

彼はイスラエルと協力してレバノン大統領に選ばれたが、就任前に暗殺された。

6-2 イラン王政(パーレビ王朝)



現在のイランはイスラエルと敵対しているが、1979年までは非常に近い関係であった。当時の指導者は、**モハンマド・レザー・パフラヴィー国王**

6-2-1 イスラエルとイランの関係

イスラエルとイランは

- 情報協力
- 石油供給
- 軍事協力

を行っていた。

情報機関同士

- **モサド**
- **SAVAK**

が協力していた。

6-2-2 なぜ協力

理由

- 両国とも アラブ民族主義を警戒
 - 共通の敵:イラクとナセルのエジプト
-

6-3 イスラエルと南スーダン独立運動



アフリカでもイスラエルは関係を築いた。相手は南スーダン

南スーダンは、2011年南スーダン独立で誕生した。

6-3-1 独立前

南部は、長年スーダン政府と内戦をしていた。イスラエルは

- 武器供給
- 軍事訓練
- 外交支援

を秘密裏に行ったと言われている。

6-3-2 理由

スーダンは当時

- 親アラブ
- 反イスラエル

の国であった。つまり、南スーダン独立は、イスラエルにとって戦略的利益だった。

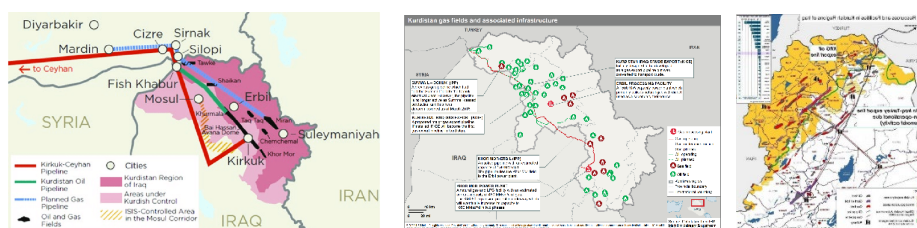
6-4 イスラエルの地政学戦略

イスラエルが協力した主な勢力

地域	協力相手	目的
イラク	クルド人	イラク弱体化
レバノン	マロン派	パレスチナ勢力対抗
イラン	パーレビ王朝	反アラブ同盟
スーダン	南スーダン	反アラブ圏

つまりイスラエルの基本戦略は、「アラブ圏を包囲する周辺同盟」。

7 資源地政学:クルディスタン



7-1 クルディスタン地域

特徴

- 中東有数の石油埋蔵地域
- 天然ガス資源

推定石油埋蔵量は、約 450 億バレル以上イスラエルにとって資源供給パートナー候補となる地域。

7-2 石油取引ネットワーク(2014-2017)

2014年 ISIL 台頭によりイラク北部の情勢が変化。クルディスタン自治政府は、独自に石油輸出を開始。

輸出経路

クルディスタン

↓

トルコ・地中海港

↓

国際市場

この時期、イスラエルは、クルディスタン石油の**最大購入国の一つ**になったと報告されている。

理由

- エネルギー確保
- イラク政府を経由しない供給
- 地政学的協力関係

出典

- US Energy Information Administration
- BP Statistical Review of World Energy
- International Energy Agency

- Financial Times (2015)
- Reuters Energy Reports
- US Energy Information Administration

7-3 イスラエル・トルコ・アゼルバイジャン軍事ライン

この三角関係はユーラシア戦略の重要軸。

関係国

- イスラエル
- トルコ
- アゼルバイジャン

特徴

- 1 軍事協力
- 2 エネルギー輸送
- 3 対イラン戦略

アゼルバイジャンは、イスラエル製兵器の主要輸入国。

出典

- Stockholm International Peace Research Institute (SIPRI)
 - CSIS Strategic Reports
-

7-4 中国・ロシアの資源戦略

7-4-1 中国

中国政策：一帯一路 目的：ユーラシア資源輸送網の構築。

中東投資：

- イラン石油
- イラク油田
- 港湾インフラ

7-4-2 ロシア

ロシア企業: ロスネフチ→石油天然ガス鉱区クルディスタンパイプライン投資を実施。

出典

- Carnegie Moscow Center
 - IEA Energy Reports
 - Russian Energy Strategy Papers
-

8 周辺同盟戦略と現在の地域再編

2020年アブラハム合意により、イスラエルは

- アラブ首長国連邦
- バーレーン
- モロッコ

と関係正常化。

背景

- 1 エネルギー市場
- 2 対イラン戦略
- 3 軍事技術協力
- 4 投資・金融

中東は、石油・軍事・金融の複合連合へ移行している。

9 結論

中東地政学の核心は、**民族 × 軍事 × 資源**の三層構造である。

イスラエルとクルド関係は

- 民族政治
- 情報戦
- エネルギー戦略

が交差する典型例であり、中東アジアの戦略構造を理解する上で重要なケースとなる。さらに、中国、ロシア、トルコを含めた**ユーラシア規模の地政学競争**へと拡大している。

Geopolitics of the Middle East through Ethnicity, Resources, and Military Strategy

— Strategic Linkages Centered on Israel and Kurdistan —

March 9, 2026

Author: Kenshin Kinoshita

Introduction

Very few studies have analyzed the relationship between the Jewish people and the Kurdish people. While these two ethnic groups share certain similarities, there are also significant differences in their historical circumstances and geopolitical positions.

The Jewish people established the State of Israel in 1948, whereas the Kurdish people remain divided among several states and still do not possess an independent nation-state. Furthermore, the Kurds are often described as one of the largest stateless ethnic groups in the world.

In terms of religion, the Jewish people traditionally practice Judaism, whereas the Kurdish people historically maintained elements of Zoroastrian belief systems, although the majority today identify as Muslims.

From a historical perspective, the Jewish people are widely known as a diaspora nation dispersed across the world, while the Kurdish people represent a geographically and politically divided nation. The Jewish people maintained a strong identity associated with the concept of a chosen people, whereas the Kurdish people possess a historical identity rooted in the cradle of Mesopotamian civilization.

Economically, Jewish communities have had significant influence within the global economy, while the Kurdish people have often been politically constrained within the geopolitical spheres of larger states such as Turkey, Iran, as well as the strategic interests of global powers including the United States and Russia.

This paper aims to analyze the similarities and differences between Jews and Kurds from the perspectives of history, economics, military strategy, politics, and ethnic identity.

Executive Summary

Ethnic Factor

The Kurds are the largest stateless ethnic group in the Middle East, where national borders do not correspond to ethnic distributions. In contrast, the Jewish people successfully rebuilt a nation-state after centuries of diaspora. The histories of these two peoples represent contrasting models of ethnic politics.

Military Strategy

Israel adopted a strategic doctrine known as the *Periphery Doctrine*, building security partnerships with non-Arab states and minority groups, including Kurdish forces.

Resource Geopolitics

The Kurdistan region possesses significant oil and natural gas reserves. For Israel, which historically lacked major energy resources, Kurdistan represents a strategically valuable potential partner.

Energy Trade

Between 2014 and 2017, Israel became one of the largest buyers of Kurdish crude oil, leading to the formation of an informal energy supply network.

Regional Order Transformation

Since the Abraham Accords, a new regional framework has been gradually emerging in the Middle East, involving Israel, Gulf states, Turkey, and Central Asia in new forms of security and resource cooperation.

1 Ethnic Factor: The Kurdish People

1.1 Population and Distribution of the Kurds

The Kurdish population is estimated to range between **30 million and 40 million people**.

They are primarily distributed across the following countries:

- Turkey
- Iran
- Iraq
- Syria
- Armenia

After World War I, the Kurdish homeland was divided by the **Sykes–Picot Agreement**, leaving the Kurds without a sovereign state.

Through migration and diaspora, Kurdish populations now also reside in:

- Israel
- Russia
- the United Kingdom
- various European countries
- the United States

Because many countries do not record ethnicity in official statistics, Kurdish population estimates are often based on **place of origin recorded during citizenship acquisition**.

1.2 Kurdish Population in Europe and the United Kingdom

Country	Kurdish Population
Germany	approx. 1.2 million
France	approx. 320,000
Netherlands	approx. 120,000
Sweden	approx. 120,000
Belgium	approx. 90,000
Austria	approx. 85,000
United Kingdom	over 90,000

1.3 Proportion within the European Population

The population of the European Union is approximately **450 million**.

If the Kurdish population in Europe is estimated at **1.5–2 million**, the proportion becomes:

$$2,000,000 \div 450,000,000 \approx \mathbf{0.44\%}$$

Therefore, Kurds represent approximately **0.3–0.5% of the European population**.

1.4 National Variations

The percentage varies significantly by country.

Germany

- Kurdish population: approx. 1.2 million
- Total population: approx. 83 million
- Ratio: approx. **1.4%**

Sweden

- Kurdish population: approx. 120,000
- Total population: approx. 10.5 million
- Ratio: approx. **around 1%**

Summary

- Kurdish population in Europe: **1.5–2 million**
- Share of European population: **0.3–0.5%**
- In some countries such as Germany: **over 1%**

1.5 Kurdish–Origin Population in Israel

Scholarly estimates generally distinguish between two categories.

1.5.1 Jews from Kurdistan (largest group)

Estimated population:

200,000 – 300,000

These are Jews whose families migrated from the Kurdistan regions of:

- Northern Iraq
- Western Iran
- Eastern Turkey

Most arrived during **large-scale migration in the 1950s**, particularly from Iraq.

One major migration operation was:

Operation Ezra and Nehemiah, an airlift that transported Iraqi Jews to Israel.

Characteristics:

- Fully integrated into Israeli society
 - Major residential areas include:
 - Jerusalem
 - Tel Aviv
 - agricultural communities known as **moshavim**
-

1.5.2 Ethnic Kurds (non-Jewish)

The number of Muslim or non-Jewish Kurds living in Israel is much smaller.

Some estimates suggest:

150,000–200,000, though the figure is uncertain.

Many are:

- refugees
- individual migrants

However, statistically, **Kurdish Jews represent the overwhelming majority of people of Kurdish origin in Israel.**

Sources

- David McDowall, *A Modern History of the Kurds*
- Mehrdad Izady, *The Kurds: A Concise Handbook*
- CIA World Factbook

Chapter 2

The Jewish People and the Formation of the State of Israel

2.1 Historical Background of the Jewish Diaspora

The Jewish people experienced a long period of diaspora following the destruction of the Second Temple in Jerusalem by the Roman Empire in 70 CE. After this event, Jewish communities dispersed throughout the Mediterranean world, Europe, and the Middle East.

Despite the dispersion, Jewish communities maintained strong cultural and religious cohesion through Judaism, Hebrew language traditions, and communal institutions. This preservation of identity enabled the Jewish people to survive as a distinct ethnic and religious group for nearly two millennia without a sovereign state.

Throughout medieval and modern history, Jewish populations experienced both periods of integration and episodes of persecution across Europe and the Middle East. In many regions they played significant roles in commerce, finance, and intellectual life.

The modern political movement advocating the re-establishment of a Jewish homeland is known as **Zionism**.

One of the most influential figures in this movement was:

- Theodor Herzl

Herzl argued that the Jewish people required a sovereign state in order to guarantee their security and political self-determination.

2.2 Establishment of the State of Israel

The State of Israel was established in 1948 following the end of the British Mandate in Palestine.

The founding of Israel was deeply influenced by the aftermath of:

- World War II

and the genocide of European Jews known as:

- The Holocaust

These events significantly strengthened international support for the creation of a Jewish state.

On May 14, 1948, Israel declared independence under the leadership of:

- David Ben-Gurion

Immediately after its declaration of independence, Israel faced military conflict with neighboring Arab states.

This conflict is commonly referred to as the:

- 1948 Arab-Israeli War

Despite the regional opposition, Israel survived and gradually developed into a technologically advanced and economically powerful state.

2.3 Jewish Immigration from the Middle East

Large numbers of Jews migrated to Israel from Middle Eastern countries during the 1950s and 1960s.

One of the largest migration waves involved Jews from Iraq. This migration occurred through an airlift operation known as:

- Operation Ezra and Nehemiah

Between 1950 and 1951, approximately **120,000 Iraqi Jews** were transported to Israel.

Among these migrants were many Jews from the Kurdish regions of northern Iraq. Today, these communities are often referred to as **Kurdish Jews**.

Kurdish Jewish communities in Israel have preserved elements of Kurdish cultural traditions while becoming fully integrated into Israeli society.

Chapter 3

Kurdish Political Movements in the Middle East

3.1 Kurdish National Movements

Unlike the Jewish people, the Kurds have not succeeded in establishing an independent nation-state.

Following the collapse of the Ottoman Empire after:

- World War I

the Kurdish homeland was divided among several states.

Today, the largest Kurdish populations live in:

- Turkey
- Iran
- Iraq
- Syria

Because of this division, Kurdish political movements have developed differently in each country.

3.2 Kurdish Politics in Iraq

The most successful Kurdish autonomy movement emerged in northern Iraq.

Following the Gulf War in 1991, Kurdish forces established a semi-autonomous region known as the **Kurdistan Regional Government (KRG)**.

One of the most prominent Kurdish leaders associated with this region is:

- Masoud Barzani

The KRG maintains its own parliament, security forces, and administrative institutions.

Although it remains formally part of Iraq, the region functions with a high degree of autonomy.

3.3 Kurdish Politics in Turkey

In Turkey, Kurdish political activism has often been associated with both political parties and armed movements.

One of the most influential Kurdish political figures in Turkey is:

- Selahattin Demirtaş

Demirtaş served as the co-leader of the pro-Kurdish political party:

- Peoples Democratic Party

He gained national attention as a presidential candidate and advocate for minority rights and democratic reforms.

However, Kurdish political movements in Turkey have faced significant legal and political restrictions.

3.4 Kurdish Armed Movements

The most well-known Kurdish armed organization is:

- Kurdistan Workers Party

Founded in 1978, the PKK initially pursued the creation of an independent Kurdish state.

The organization has engaged in a long-running conflict with the Turkish government.

Because of its militant activities, the PKK is designated as a terrorist organization by:

- European Union
- United States
- Turkey

However, the PKK and related Kurdish forces have also been involved in military operations against:

- Islamic State

particularly in Syria and Iraq.

Interim Conclusion

The historical experiences of Jews and Kurds present two contrasting geopolitical trajectories:

Jewish history demonstrates the **successful establishment of a nation–state following centuries of diaspora**, while Kurdish history reflects the **continuing struggle for political autonomy within existing states**.

Nevertheless, both peoples occupy strategically important positions within Middle Eastern geopolitics.

Understanding the interaction between these two historical trajectories provides valuable insight into regional political dynamics.

Chapter 4

Strategic Relations between Israel and Kurdish Movements

4.1 Israel's Periphery Doctrine

One of the key strategic principles guiding Israel's early foreign policy was the concept known as the **Periphery Doctrine**.

This doctrine was developed during the leadership of:

- David Ben–Gurion

The central idea of the Periphery Doctrine was that Israel, surrounded by hostile Arab states, should establish alliances with **non–Arab regional actors and minority groups** located on the periphery of the Middle East.

These partnerships included relationships with:

- Iran (before the 1979 revolution)
- Turkey
- Ethiopia

In addition to states, Israel also cultivated informal relations with **ethnic minorities** that were in tension with Arab nationalist regimes.

Among these groups, Kurdish movements were considered strategically important.

4.2 Early Contacts with Kurdish Leaders

Historical research suggests that contacts between Israel and Kurdish political movements began during the 1960s.

At that time, Kurdish forces in Iraq were engaged in an armed struggle against the Iraqi government.

The Iraqi Kurdish movement was led by:

- Mustafa Barzani

Israel viewed Kurdish forces as a potential strategic partner in weakening hostile regimes in the region, particularly Iraq.

Israeli intelligence agencies reportedly provided various forms of support to Kurdish forces, including:

- military training
- intelligence sharing
- limited logistical assistance

These activities were reportedly coordinated through the Israeli intelligence service:

- Mossad

While much of this cooperation remains classified, multiple historical studies have documented indirect Israeli support for Kurdish insurgents during this period.

4.3 Kurdish Autonomy in Iraq

Following the 1991 Gulf War, a major transformation occurred in Kurdish politics.

After the war, a no-fly zone was established in northern Iraq by the United States and its allies. This allowed Kurdish forces to establish a semi-autonomous political entity.

This entity eventually became known as the:

- Kurdistan Regional Government

The KRG maintains its own institutions, including:

- parliament
- military forces
- foreign economic relations

One of the most prominent leaders associated with the KRG is:

- Masoud Barzani

The emergence of this autonomous Kurdish region created new opportunities for international partnerships, including informal relations with Israel.

4.4 Energy Cooperation

One of the most significant dimensions of Israel-Kurdistan relations involves **energy trade**.

The Kurdistan region possesses substantial oil reserves located in northern Iraq.

In the mid-2010s, reports indicated that Israel had become one of the largest importers of Kurdish crude oil.

During the period between 2014 and 2017, several international media reports suggested that **a large share of Kurdish oil exports was ultimately sold to Israel through intermediary traders.**

This trade relationship was particularly important because Israel historically lacked domestic energy resources.

Kurdish oil exports were typically transported through pipelines that passed through:

- Turkey

before being shipped via Mediterranean ports.

Although the KRG and Israel rarely publicly confirm the full extent of their cooperation, energy trade has been widely regarded as a key element of the relationship.

4.5 Kurdish Forces and the War against ISIS

During the conflict against:

- Islamic State

Kurdish forces became one of the most effective ground forces fighting the organization in Iraq and Syria.

These forces included:

- Peshmerga (Iraq)
- People's Protection Units (Syria)

The international coalition against ISIS provided military support to Kurdish forces.

Israel publicly expressed sympathy and political support for Kurdish aspirations during this period.

Some Israeli officials argued that an independent Kurdish state could serve as a **moderate and pro-Western partner** in the region.

Chapter 5

Resource Geopolitics of Kurdistan

5.1 Oil Reserves

The Kurdistan region contains significant hydrocarbon resources.

Major oil fields include:

- Kirkuk field
- Taq Taq field
- Shaikan field

These reserves are estimated to contain **tens of billions of barrels of oil**.

The city of:

- Kirkuk

has historically been one of the most important oil centers in Iraq.

Control over these resources has long been a source of political tension between the Kurdish regional authorities and the Iraqi central government.

5.2 Pipeline Geopolitics

Kurdish oil exports depend heavily on pipeline infrastructure.

One of the most important export routes runs through:

- Ceyhan

in Turkey.

From there, oil is shipped to global markets via the Mediterranean Sea.

This pipeline network gives Turkey significant influence over Kurdish energy exports.

As a result, Kurdish political leaders must carefully balance their relations with:

- Turkey
 - Iraq
 - international energy markets
-

Strategic Conclusion

The relationship between Israel and Kurdish political movements reflects broader patterns of Middle Eastern geopolitics.

Three structural factors are particularly important:

1 Strategic Geography

Both Israel and Kurdish regions occupy critical locations within the Middle East.

2 Shared Strategic Interests

Both actors have historically faced pressure from larger regional states.

3 Energy and Security Cooperation

Energy trade and security coordination have strengthened informal ties between the two sides.

Chapter 6

Kurdish Diaspora Politics in Europe

6.1 Formation of the Kurdish Diaspora in Europe

The Kurdish diaspora in Europe began to expand significantly after the 1960s.

The first major migration wave consisted of labor migrants who moved to Western Europe as part of industrial labor recruitment programs.

One of the most important destinations was:

- Germany

which invited foreign workers through the **Gastarbeiter (guest worker) system**.

During the 1970s and 1980s, many Kurds from Turkey migrated to Europe under this program.

A second migration wave occurred during the 1980s and 1990s due to political conflict and instability in the Middle East.

Many Kurdish refugees fled from:

- Turkey
- Iraq
- Iran
- Syria

These migrants established large Kurdish communities across Europe.

6.2 Major Kurdish Communities in Europe

Today, Europe hosts one of the largest Kurdish diaspora populations in the world.

Estimated Kurdish populations include:

Country	Estimated Kurdish Population
Germany	approx. 1,000,000–1,200,000
France	approx. 300,000
Netherlands	approx. 100,000–120,000
Sweden	approx. 100,000–120,000
Belgium	approx. 80,000–90,000
Austria	approx. 80,000–90,000
United Kingdom	approx. 90,000+

Many of these communities are concentrated in major metropolitan areas such as:

- Berlin
- Cologne
- Stockholm
- Amsterdam
- Vienna

Urban concentration has enabled Kurdish communities to develop **political influence in local electoral districts**.

6.3 Kurdish Political Participation in Europe

Over time, Kurdish diaspora communities have increasingly participated in European political institutions.

Several Kurdish-origin politicians have been elected to national parliaments or held senior political positions.

Examples include:

- Dilan Yeşilgöz
Vice Prime Minister and Minister of Defense of the Netherlands
- Berivan Aslan
Member of the Austrian Parliament
- Helin Evrim Sommer
Member of the German Bundestag

These figures demonstrate the increasing political integration of Kurdish diaspora communities within European democracies.

6.4 Kurdish Lobbying Networks

Kurdish diaspora organizations in Europe have also developed lobbying networks aimed at influencing policy on Middle Eastern affairs.

One of the most prominent transnational Kurdish organizations is:

- Kurdistan National Congress

The KNK operates as a coordinating body for Kurdish political activities across Europe.

These networks frequently engage with European political institutions, including:

- European Parliament

Lobbying efforts often focus on issues such as:

- Kurdish cultural rights
 - political autonomy
 - Human rights conditions in Kurdish regions
-

6.5 Security Controversies

The presence of Kurdish political networks in Europe has also generated political controversy.

Some European governments have expressed concern regarding connections between diaspora organizations and the militant group:

- Kurdistan Workers Party

The PKK has been designated as a terrorist organization by:

- European Union
- United States
- Turkey

At the same time, Kurdish groups argue that their political activities in Europe are focused on **democratic advocacy and human rights campaigns**.

This dual perception has created complex political debates within European societies.

Chapter 7

The Future of Kurdish Geopolitics

7.1 Regional Power Competition

Kurdish politics is deeply shaped by the strategic interests of regional powers.

Key regional actors include:

- Turkey
- Iran
- Iraq
- Syria

Each of these states contains significant Kurdish populations and maintains strong opposition to Kurdish independence movements.

7.2 Global Power Involvement

Major global powers also play important roles in Kurdish geopolitics.

These actors include:

- United States
- Russia
- Israel

Each power has, at different times, supported Kurdish groups for strategic reasons.

However, international support has often been **conditional and temporary**, reflecting broader geopolitical calculations.

7.3 Strategic Scenarios

Several possible future scenarios can be identified for Kurdish geopolitics.

Scenario 1: Expanded Regional Autonomy

Kurdish regions gain increased autonomy within existing states.

Scenario 2: Continued Fragmentation

Kurdish political movements remain divided among multiple states.

Scenario 3: Emergence of an Independent Kurdish State

A sovereign Kurdish state emerges under favorable geopolitical conditions.

While the third scenario has long been a goal for many Kurdish national movements, it remains politically difficult due to regional opposition.

Final Analytical Conclusion

The Kurdish question represents one of the most complex geopolitical issues in the modern Middle East.

Three key structural factors shape the future of Kurdish politics:

1. Ethnic distribution across multiple states
2. Control of significant energy resources
3. Strategic interest from regional and global powers

At the same time, the Kurdish diaspora in Europe has created **a new transnational dimension** to Kurdish political activism.

Understanding Kurdish geopolitics therefore requires analyzing **both Middle Eastern regional dynamics and European diaspora politics**.
